

編集後記

知働化研究会誌 Volume2 をなんとか形にすることができました。創刊第1号から早や5年の月日が経ってしまいました。その反面、内容は深く、とても読み応えのあるものに仕上がっていると思います。分量も、知働化フォーラムのスライド集を含んでいるとは言え、200ページを超える大作になっています。

普段は締め切りに追われている筆者ですが、メンバの方々のフォローアップをする立場になって、ゆるい形ですがペースメイキングをさせていただきました。心がけたことは、以下の通りです。

- 作品は普段の探求の現れに過ぎないので、実質的な締め切りを設定せず、「先生、原稿を」という追い込み型ではなく、メンバの考えが進むことを優先したこと。
- 定期的な会合での議論を通じて、お互いに学習するプロセスとしてのコミュニケーションを行い、考えや作品が熟成してくるのを待つ。自由な発想を妨げないようにすることに細心の注意をはらう。
- 研究会誌全体（知働化研究活動）のメッセージ性・方向性を示す。2010年の『新ソフトウェア宣言』の次のステップへ。

いくつかの作品は2014年の秋に投稿いただいたものですが、この夏から秋にかけて新たな書き下ろし作品もあります。第1号の作品から、同じテーマで考え続けその進化した考えを提示しているものもあります。「知働化」が、本来、ソフトウェアについて考え続ける活動そのものを意味していますから、全体的に第1号より

も第2号の方が成熟していると言えるでしょう。

考えを進めるためのフォローアップを兼ねて、2015年3月に知働化フォーラム2015を開催しましたが、これが思いのほか、いろいろな意味で成果があったように思えます。以下の通りです。

- 知働化研究会の2009年設立以来の活動の節目になったこと
 - ✓ 『新ソフトウェア宣言』の正しさを確認し、総括できたこと
 - ✓ 「知のフリマ」という知の交流方法の完成度を高められたこと
 - ✓ 次のステージへ取り組む姿勢を確認できたこと
- 関連コミュニティとの連携を図ることができたこと
 - ✓ いくつかの業界団体・学術団体の協賛を得て、知働化の認知度を高めたこと
 - ✓ 関連コミュニティの活動テーマにおいて、ソフトウェアの将来について共通認識を得られたこと

これ等の成果をお伝えするために、本研究会誌では知働化フォーラムの様子を随想やスライド集の形で掲載することにしました。

会誌自体の編集方法は、第1号に準拠しています。掲載論文は原稿の到着順です。後半に随想とスライド集を置き、全体のボリューム感を保ちました。序や結は、編集者として会誌の体裁を整えるために、いくつかの随想・解説的記述を書き下ろしました。

最後になりますが、ご投稿いただいた方々、スライド集をご提供いただいた方々、そして、研究会合にてたくさんの議論をしていただいたメンバの方々に、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

